

天理教民生児童委員連盟 連盟だより

第 8 号

立教187年11月25日

編集・発行 天理教民生児童委員連盟

天理市三島町1-1 社会福祉課内

☎ 0743-63-6161

新期委員会の発足に寄せて



天理教民生児童委員連盟委員長

橋本直之

この度、山田前委員長より連盟の委員長を引き継ぐにあたりまして、大変遅れましたが新規委員会の発足について、改めまして会員の皆様方に新体制の報告をさせていただきます。

民生児童委員連盟の主な活動は、「おやさと研修会」と「地域のおたすけ研修会」であります。今後ともこの二本柱を継承して国々所々の教会活動が、互いに助け合う地域における居場所の創設につながり、やさしくて暖かい心のよりどころになる、「陽気ぐらしの町のホットステーション」として機能することを目指しております。

一般に民生児童委員の活動は行政と連携して、地域社会との関係性の中で福祉の増進に努めることにありますが、私たちようばく民生児童委員は底なしの親切をもって、ひのきしん精神の更なる涵養が求められているものと存じます。

その意味では民生と児童に係る活動領域は、受胎妊娠から始まって墓仕舞いに至るまで、「人の一生」をおたすけの現場としているといっても過言ではありません。

そのおたすけの対象は限りなく、具体的には、「望まない妊娠、堕胎、特別養子縁組、CPAイライラしない子育て法の普及、家庭愛護、乳児院、里親、虐待」といった、女性と子どもの生活に関わることで、「DV、貧困、格差」など家庭生活の安定に関わることで、「こども食堂、ふれあい喫茶、フードパントリー、学習支援、不登校支援、ひきこもり、いじめ、非行防止、犯罪防止」などの地域社会における助け合いと防犯活動、そして「認知症、ホームホスピス、孤立、孤独、無縁、自死、看取り」などの高齢者支援と人の生死にかかわることや、様々な人権課題等々、身近に接する取り組みが数多くあります。

こうした活動を通して、教会はじめ各拠点が宗教施設ではあっても、地域においてなくてはならない交流拠点となり、親しみやすく敷居の低いたすけの輪が広がる場となり、ひいてはまことのたすかりに結実することを願っております。また、これは私の希望でもあります。私たちの地域活動が定着していけば、少年会活動の一般地域社会での定着化も実現可能ではないかと思うところがあります。

最後になりますが、巻末に副委員長をはじめ13名の新期委員を紹介させていただいております。委員共々精一杯の連盟活動に努力したいと思っています。

会員の皆様方をはじめ関係者ご一同様のご指導ご鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げる次第であります。



第7回『地域のおたすけ研修会』（令和6年5月29日・於愛知教務支庁）

コロナ禍の影響で久しく開催されていなかった「地域のおたすけ研修会」を愛知教区、岐阜教区、三重教区のご協力のもと令和6年5月29日に愛知教務支庁にて開催した。

主催者挨拶として山田常則委員長より、天理教民生児童委員連盟の立場や目的、また昨今の社会の諸問題について話がおよび本研修会の趣旨が伝えられた。その後、主賓の愛知教区長・西初晴氏よりご挨拶をいただいた。

本研修会では、第一講として、愛知県民生委員児童委員連盟の前会長・丹羽薈氏による基調講演を、第二講では、吉永道子委員による子育て支援の実践報告が行われた。また、参加者によるグループ討議が行われ、それに先立ち陽氣会代表・杉江健司氏、橋本直之委員が話題を提供し、グループごとで闊達な議論が行われた。参加者は38名であった。



第一講

「民生委員児童委員とは

——愛知県での長年の体験を通して——」（要旨）

講師

愛知県民生委員児童委員連盟前会長

丹羽 薈^{しげみ}氏



私は愛知県の民生委員児童委員連盟の会長を務めさせていただきました。今日は、基礎的なお話をさせていただきたいと思います。

皆さん、それぞれ民生委員になれる経緯があったと思います。その共通することは、頼まれた人が、「この人なら民生委員として地域のた

めに一生懸命やってくれるんじゃないか」と思いを託したということです。決して、誰でもいいからついでという事で頼まれた人ではないと思うのです。貴重中の貴重な人材なのです。

民生委員の仕事は本当にやるのがいいです。まず社協、それから少年センター、それから一番大変なのが9月から11月という暑い時から寒い時に行われる資源台帳の整備です。

ある時、瀬戸市の委員会で、民生委員の仕事には分からないことが多いという話になりました。全児連の民生委員の心構えが分厚い冊子で渡されているので、これを読んだことがあるかと聞くと、誰も読んでないことがわかりました。そこで愛知県中の民生委員に、勤めるにあたって希望することのアンケートを出しました。その結果、何が一番欲しいかというと、住民の対象者の住所とかそういう情報が欲しいとなりました。しかし、これは個人情報保護法で難しかったので、2番目の活動の手引書がほしいということで、民生委員の活動のQ&Aという形で独自の手引書を作成しました。

現在、全国では民生委員の担い手不足が課題となっています。大体3割が改選の時に辞めてしまいます。1期で入った人の3割が1期目でやめてしまいます。それで、2期目になった人の3割もまたやめていくそうです。ぜひ、委嘱されたからには3期は絶対やっていただきたいです。そうすると、面白みが出てくるのではと思っています。

それから、民生委員同士は仲良くあってほしいです。いつもいがみ合っていたら、その地区民協の活動は全くできなくなってしまうのです。ですから、民生委員は勉強だけでなく楽しい行事などを通じて交流を深めることが大切だと思います。また、わからないところは一人では悩まないで、会長と連携を図りながら、市役所などのサポートを受けつつ問題を解決するのが望ましいです。

私が民児協の活動で大切に思うことは、高齢者などの見守りなど周囲と助け合って行うときは「それとなく見る」だと思います。見守る側が負担になるような活動にならないことが大切ではないでしょうか。

また一つ、非常時の備えが大切だと思います。昔、阪神大震災あった時に、瀬戸市は防災部会というのを作りました。各種勉強会や見学などを行い多くを学び、感心しました。そこで非常時に使用する対象者の情報が欲しいというので、福祉課に依頼したが、なかなかできず、2年たって作ってくれました。

しかし、その情報は様々な制限でがんじがらめで使いづらいものでした。そのうちに、個人情報保護法を災害のために管理する法律ができましたが、充実した台帳がなく、不十分だということで、瀬戸市の民児協が作った台帳を提供し、台帳にしてもらいました。それでも不備があり、補足事項は自分たちで調べました。

民生児童委員の活動というと、全国的に敬老会とか色々あったんですが、昨今はやめているところが多いです。そのかわり、地域において色々な活動が行われています。これは民生委員が主になるところが多いです。

例えば、山口市社協では、一人暮らしの高齢者のところへ、ふれあい配食をやっていました。これは、最初は50食ぐらいだったのですが、そのうちに150食ぐらいになりました。あとは、いきいきサロンとか、子育てサロンとかありました。それから、介護用品の支給もありました。

課題としては、民生委員は、継続的になり手が不足しています。その理由はさまざまですが、欠員がありますと、担当の地域の間がみんなで分散してやらなくては、ということ、10人必要な地区が7人だったら、その7人で全体を把握しなくてはなりません。ですから、支援の充実化のためにも、欠員の少ない100%の民生委員を目指したいと



思います。色々と課題はありますが、やっぱり民生委員は社会において必要なんです。

この社会には、一人暮らしの老人が16・5%という少子高齢化の問題があります。そして、高齢者世帯の半分は老夫婦世帯です。それから、学校でのいじめ、児童虐待、高齢者虐待、そして特殊詐欺や闇バイトと、こういったSNSを使った詐欺など色々な問題があります。

私がお伝えしたいことは、民生委員は、この人ならばという人ばかりですので、主任児童員さんとか児童委員としてプライドを持って勤めていただきたいと思います。みんな子どもたちをしっかりと育てていきましょう。子どもたちは我々の後、日本を担ってくれる人です。

中国の三国志に、「悪の小なるを以て之を為す勿れ」と、どんなに小さいことでもいけないことはしっかりと伝える。また「善の小なるを以て為さざる勿れ」と、どんな小さなことでも自分がいいなと思ったことは必ずやってほしい。この二つの言葉を心の片隅に置いて民協の活動を進めていただきたいと思います。

最後になりますが、愛知県の社会福祉協議会のスローガン「安心して生き生きと地域で暮らせる社会」この頭文字を取ると「愛知福祉」となります。これからも社会福祉に携わる私たちは、この精神で民協の活動、社会福祉活動が続けていきたいと思います。



第二講

「みんなで作ろう子育ての輪

～教会でできる身近な地域の助け合い～」

講師

NPO法人子育て広場かあかのおうち理事長

吉永 道子氏

■「かあかのおうち」開設のきっかけ

東京スカイツリーから、こんにちは。

「みんなで作ろう子育ての輪」教会でできる身近な地域の助け合い」
NPO法人子育て広場かあかのおうち理事長吉永道子と申します。

民生児童委員は、委嘱されて9期目、今20年目になります。

自教会は、東京都墨田区。先ほどスカイツリーからこんにちはとご挨拶をさせていただいたんですけれども、スカイツリーの周りをいつも自転車ですべて回ります。

江戸時代から下町の文化が根強く今も残っている地域なんです。それで、本当に狭い地域なので、私どもの教会は30坪です。30坪の教会に3階建てが建っております。1階の下フロアが6畳2間とキッチンそれから2階が神殿で、イベントの活動もしております。このようなところで、子育て広場の事業を展開しております。

まず、どんな場所、地域子育て支援って何っていうところなんです。が、これは厚生労働省が、子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や子育ての不安や悩みを相談できる場所、それから親子、家庭、地域社会の交わりを作り出す場所として内閣がうたってくださっています。

その中で、私ども教会の施設をお借りしているんですけれども、どう

やってできたのかということを少し具体的にご案内いたします。

きっかけはですね、私がママたちの応援をしたいと思ったんです。民生児童委員っていうのは、ほぼほぼ高齢者の方の支援が90%だと思うんですね。私も今、20年、民生児童委員をさせていただいてる中で、最初の10年、本当に高齢者のことしか携わっていないんじゃないかと感じていました。それが当たり前なんです。私自身も子どもが4人おりますけれども、子どもたちが結婚していく中で、子育てをしている親に寄り添うことがとても大切なんじゃないかなというのを自分が身をもって感じました。

それから、実は、天理時報に子育て広場をしている教友の方が載ってました。私はそれを見て、民生児童委員として立場をいかして、子育て広場をしてみたいと思ったのがきっかけで始めました。子育て広場事業の先輩に相談というのは、まさしくその時報で拝見した方を訪ねました。同じ東京なんですけど、1時間ぐらいかけた練馬区というところだったんです。訪ねましたら、木造の2階建ての借家だったんですけど、下が6畳2間とキッチンで、2階に4畳半で6畳の部屋があった、その木造の一戸建てで子育て広場をしていました。私は天理時報に載ったので、これはもう素晴らしい、素敵な施設かなと思って行きました。ところが、それを見た時に、うちの教会でもできる、と思ったんですね。つまり、大きくて素晴らしい、そういうスペースでやっていたら、きっとこれにはお金もあるし、人もいるし、いろんなことがある、大変なんだろうなと思うところ、私は自分がやりたいと思う気持ちと、資金も場所も人もいなかったの、まずそのスペースを見たとき、これならうちの教会、うちのスペースでできる、と思ったのもうワクワクして始めました。

それからスタッフ集めということなんですけど、私どもの教会は信

者さんにお手伝いしていただくとか、ひのきしんに来ていただくということは一切ございませんし、できないんですね。なので、私の4人の子どものママ友に、お茶を飲みながら、こんなこと始めたいんだけど、とか話していたら、いいよ、手伝ってあげると言われて、もう9年目になります。それから役所に相談に行きました。何かご相談をするとき、民生児童委員なので、役所ってちゃんと聞いてくれるんですね。民生児童委員という立場は本当にありがたいなと、こういう時、つくづく思っただけです。

ところが、本筋の相談をするときには、もう一つ工夫をしまして、区議会議員さんとか、それぞれ民生児童委員と議員さんっていうのは繋がっていることが多いので、議会の区議会議員さんをお願いして、またその方と一緒にその担当支援課に行って、ご相談をさせていただきました。

そうすると、もう1歩進んで、先ほど言った子育て広場事業、つまり、親子で遊びに来れる場所はいしてもいいですよっていうことで、スタートできたんですね。

■NPO法人取得と活動の展開

ところが、民間なので委託事業とかそういうのは一切ない。それと、行政がそこに助成金を下ろすというのは市町村によって違います。私が練馬区に行って見本にしたその施設は、練馬区からちゃんと助成金が出てたんですが、墨田区はないんです。そもそも、お手伝いして下さっているママたちにお給料が払えないですよ。ということ、今度は一時預かりをスタートする時に東京都に申請に行きました。

そうしましたら東京都は、この場所、このスペースで、この企画によつたらこの分は出ますということ、一時預かり事業に関してきちんと交付金が出るようになりました。現在それが骨子で運営になっている

んですけども、そのようなことがスタートできました。

それで、イベントとか講座とかそういうものをしていくんです。一個一個言われたことをやっていく中で、助成金事業というところで、助成金が出るからイベントもできる、講座をするために講師の方にお支払いができるという時に、法人になっていないと助成金の申請できないと区議会さんが言うわけです。これはもう資金がかからないNPO法人になるしかないという心を決めて、東京都のNPO法人課に行って色々学ばせていただいて、1年目で法人資格を取り、改めて助成金の事業に応募し、申請をいただいて、現在はイベント費はそこから出ております。

どんな仕組みというところなんですけれども、私どもの「かあかのおうち」という名前です。お手元にもパンフレットありましたらご覧いただけるとありがたいんですけど、子育て中の親子の身近な場所なんです。本当に身近な場所なんです。子育て中の親子さん、もちろん妊婦さんも含め、その方をどういうふうにつなげていくかというところで、私どもが中心になり、親御さんとの行き来があり、それをそれぞれの行政機関、また敷居が低い場所ということで、これをつなげていきます。

私の自慢のスタッフには、天理教関係者は一人もいません。関係者はいませんと言ったらいけないんですけど、皆さん私のママ友、それから、今年9年目になるんですが、最初の頃に利用して下さった利用者さんのママ、つまりベビーを連れてきたお母さんが、今利用者からスタッフに入ってくださいっているんです。そのほかに、英語教室とかいろんな講座をしているんですが、講座に来てくださっている講師も、それからイベントを司ってるスタッフ、全部かあかのおうちの利用者またはご家族、またその方からのご縁で全部それが成り立っているというのがかあかのおうちです。



「かあかのおうち」の活動と親神様のお引き寄せ

「かあかのおうち」の玄関は、ちょっと可愛い玄関です。教会の玄関だと教会の看板を見て、入らなかった方がいるっていうのを聞いたので、もっと入りやすくなった方がいいっていうので、ほぼほぼ横付けに新しい可愛い玄関を作りました。皆さんは自転車かベビーカーで来るので、10台とか、15台ぐらい狭いスペースに停めて中に入ります。

英語の先生がやってる英語教室なんですけど、私どものこの可愛い神殿です。拝殿が15帖ぐらいしかないんですけど、ここで、イベントをしています。誕生日会や七夕祭りですね、拝殿にブルーシートを敷いて、スイカ割りとか、そういうことをしたり、ヨーヨー釣りをしたりということをしています。ハロウィンパーティーはみんな仮装したりして、準備ができましたので、かあかができてくださって言われて行ったら、御簾に飾り付けしてあってね。さすがの私もちょっとびっくりしたんですけど、とても明るくなって、私はえーつと言いながら喜ばずにはおれなかったというのが、神様を近くに感じてるなど、私のスタッフだなと思っています。もう全てイベントは、全部神殿でやります。なぜ神殿かっていうと、スペースが神殿しかないんです。

たとえば、両親学級という講座なんですけど、これから赤ちゃんが生まれる妊娠中のママとパパが来て、沐浴、赤ちゃんをお風呂に入れるための練習で、助産師さん自らマンツーマンで教えてくださいます。また、親御さん同士のご相談とかもマンツーマンで行います。

また、防災講座を行います。墨田区は関東大震災、それから太平洋戦争の東京大空襲で焼け野原になったり、本当にひどい災害と人災があったところで、今も隅田川や荒川の自然災害の可能性が高いところなので、そこで区役所の方が来ていただいて行っています。

そして、救急救命講座。これは、救急救命士のパパさんがいつも救急車に乗っているような手当てをしてるので、ボランティアで来ていただいています。

その他には、ピラティスレッスンといって、ママがヨガのような体操をするのですが、全部神殿でします。その時にお子様は下で私たちがスタッフが見ているので、ママはリラックスできます。あと、ちょっと課外に出て、いちご狩り遠足に行ってきた、親子の交流を楽しみました。

新日本フィルというオーケストラがありますが、そちらにご協力をいただいて、すぐ近くのコンサートホールをお借りして、コンサートをさせていただきました。

赤ちゃん食堂のチラシをご覧ください。今、天理教内では、福祉課の方に登録してるだけでも子ども食堂が220箇所ぐらいあるんですが、私どもは赤ちゃんの離乳食と一緒に食べる、つまり離乳食を作って皆さんと共同して食べています。パパが自らお子さんに離乳食あげることもあります。



令和5年度は年間85回以上のイベントや講座をさせていただきました。参加者は延べ1千151名で、本来、私どもは、1階の子育て広場で6畳2間とキッチンのところですね、そこで親子で遊びに来ているということをしているんですね。そうすると、そこに延べ昨年1千770名の方が来ていただきました。

そして一時預かり、親御さんがいなくて、理由は問わないでお子さんをお預かりするというのをさせていただいてるんですけど、それは年間で370名。で、何が言いたいかというと、昨年1年間、かাকাのおうちとその可愛い神殿に3千291名の方がいらしたんです。

これはもう神様が、おいでおいでって言って下さってるとしか思えない。これは私自身がいつも勝手に思っていることなんですけれども、スタッフは、天理教関係者は誰もいないんですね。同じように、イベントが始まる時にお掃除をして、終わった後もお掃除をして、イベントをするところは神様のところで、神殿ですよ。でも、もう絶対神様のお引き寄せがあると、私はいつもここだけは声を大にして言っています。

■現代の育児の現状にそくした支援のカタチ

それからどういう親子が来るかというと、これは全国的にアウェイ育児と申しまして、自分が生まれ育った場所以外、つまり地元ではなくて、そういう慣れ親しんだ土地から離れて子育てをすることなんです。パパが墨田区でお嫁に来たとか、例えば名古屋のご主人で、じゃ、東京からお嫁に来たとか、そういうことも多々あると思うんですが、全国の統計なんですけど、最近は大体75%が自分の生まれ育ったところではないところで育児をしているということがあります。そこでどういう問題点が起きるかという、妊娠してからふっと悩みを相談できたり、そういう共有する人が周りにいないとか、保育園とか幼稚園に入る前など、つ

まり妊娠期から里帰り出産をして帰ってきた、その一番大変な時、気持ちも体も大変な時に、ちょっと話せるお友達がいないとか、いざという時に安心して預けられる場所がない、ということがアウェイ育児と言います。その中で、私も、地域支援事業ということで、この地域連携イコール教会施設の役割が大切というのをつくづく感じています。地域連携ってどういうこと、って言ったら、教会は地域の中にあるわけです。

その教会がどういう風にしたら地域に根差していけるかなっていう、うちのスタッフは教会とは思ってないかもしれないんですけども、そういうことを考えた時に、本当に子育て世帯は社会の中で本当に少数派なんです。ただ少数派かというと、これ昨年の7月に厚生労働省が出してくださったデータで、児童がいる世帯が全体の世帯の中の21%しかないです。ということは、赤ちゃんじゃないですよ、80%は子どもがいない世帯なんです。よく独居とか高齢者世帯とか言いますが、そもそも若い世代であっても子どもがいない世帯が全体的に80%がいると言われ、これは統計ですから確かなものだと思います。

こういう中で、子育てを知らない他の世代とものすごく隔たりがあります。子どもと赤ちゃんが理解されにくいですね。自分に孫ができた可愛いなと思って、そのお孫さんとか小さい子見たら、微笑むと思うんですけども、そもそも自分に子どもがいなかったり赤ちゃんが周りにいない時に電車に乗ってうるさかったら、うるさいとか、ちょっと舌打ちするような、これが今の現状なんです。ここに隔たりがすごくあります。なので、地域の中でいかに親子たちを地域につなげていけるかで、地域の中で親子がバラバラになってしまふところを、止めていきたいなと思っています。

利用者主体の支援というのはどういうことかと言ったら、私どもが教会の中でやってる85回のイベントの中に、本人に興味があるなっていう

ところをまず声かけをします。個別ニーズに合わせた支援っていうのは、一人一人、全体じゃないです。一人一人に合わせたプログラムを紹介していきます。包括的な支援っていうのは、家族の様子を捉えて、その家族で来られるイベントを作っています。

子どもの育ちを見通した継続的な支援。これは親子の関係を開くために継続的な支援を続けています。早期の予防支援、これは民生委員として関係機関としっかり連携しながら見守っていきます。

最後に地域ぐるみの支援。私たち民生委員は地域を知っておりますので、いかに地域につなげるかということをやっていきます。

■支援の事例

事例を3つだけ簡単に。一つ目の事例です。墨田区に住んでいるママの話です。生後1カ月の赤ちゃんを預かってほしいということで電話がありました。本来、私が直接そのお家に行くことはないんですけど、一時期預かりをしたい方は直接私どもの施設に申し込みに来るんですが、その方は5時半頃に電話がありました。つまり、役所は5時半は電話は受けつけないんですね。それで、私どもに連絡がありました。

そこは民生児童委員の習慣が働いて、そのお家を訪ねたら、もう本当にネグレクト状態。ママの心が折れてるなっていうのが、手に取ってわかったんですね。それで、お預かりをしました。それも二晩、夜通し。私、久々に1カ月の赤ちゃんに夜中寝ずにミルクをあげたなっていう経験をしました。でも、これは二晩だけになりました。

民生児童委員として子育て支援センターに翌日連絡をしましたら、「それは吉永さん、やめてください」と、言われました。「もし事故があったら大変です。どんなに民間で子育て事業をやってもそれは違います」と、言われてしまったんですけども、中継ぎがその2日間です。

きたおかげで、支援の方向性の検討とか、赤ちゃんは「かあかのおうち」のスタッフに昼間は見てもらったりとか、このママのことでそういう連携が取れました。

事例2ですが、普通、居住の行政のところでないとお子さんはお預かりはできないんですね。それは税金の関係があります。墨田区だと他の区の方はダメなんです。ところが、うち、民間なのでオッケーでした。そのママがこんな大きな荷物を持って3歳の女の子を抱えてきました。実は夫のDVで逃げてきましたとのこと。弁護士さんに相談に行くときに、「子どもは連れてこないでください」と言われました。支援センターに電話したら、預かってもらえるとこは多分かあさんちです。すよって言われて、うちに電話がありました。行政も都合のいい時にうちを使ってるなと思うんですけど、でも都合が良くていいんですよ。でも、そのママを引き受けて、ママが申込書を書いてる時に、実は夫のDVでこういうふうに来ましたっていう、すごく重要なことを滔々^{とうとう}と話されるので、これはもう、その日に手立てを打たなきゃいけないということで、生活福祉課の母子センターに連絡をし、一時保護の母子施設に連絡をし、またそれを統括する支援センターに連絡をし、対応をそこで協議しました。これ、民生児童委員だからできるんですね。その間に弁護士さんともママが話ができ、また、ご主人からものすごい電話がかかってきたんですけども、警察にも連絡をしました。私が民生児童委員という立場であるので、スピーディーに対処できました。じゃあ、お子さんは、って言ったたら、うちのスタッフがちゃんと見てくれてる、こういう連携がうちの施設でできました。

最後に、事例3なんですけど、このママは墨田区の方なんですけど、2カ月の男の子を保育園に入るまで預かってくださいっていうことでした。2カ月の首も座ってない赤ちゃんです。で、その申し込みに来た時

に、10歳の小学生と2歳の女の子を連れてきたんですね。それでママが、「私、障害者なんです」と、障害者手帳を見せるわけです。2歳の女の子を10歳の女の子がずっと面倒を見てるんです。おむつ替えも、手を引くことも。これはまさしくヤングケアラーですね。

保健師さんに電話をして、支援センターに療育相談し、墨田区のありとあらゆるサポートセンターに連絡しました。それで、民生児童委員だからこそ、ネットワークを構築しているの、全てにかけて私は動き、この2歳の女の子と2カ月の男の子はうちのスタッフが見るといいう、かあかのおうちの中のスタッフで役割分担をしながら、このママに対応ができました。

■教会は敷居は低く、間口は広く、奥行きは深く

子育て広場やお茶飲みスペースを教会の中に作っています。これが気軽に話せる施設になっているんじゃないかと。教会と想ってるのは私だけなんです。でも、教会というよりも、その施設全体がそうした気軽に話せる施設になっているんじゃないかと感じています。

個別のニーズに合わせた話をするわけですね。毎回毎回、たくさん大変な事例があるわけではなくて、日常の何気ない会話とか一言の悩みをスタッフがカチッとキャッチするんですね。それを私たちが共有していく。子どもの育ちを見通した、今、発達段階で気になるねって、じゃあこの保育園だったらこういう先生、この保育園はこんな形ができるねって見通しをママたちとの会話の中でできる。そして、そのママに合わせた支援をし、相談機関につなげられるんです。

スタッフが拾った話を、私がそれを聞いて、民生児童委員のスキルでポンポンと繋げていくということをさせていた。そうすると、早期の予防になるんですけど、予防ができ、子育ての不安、その負担の

軽減となります。

よくあるんですけど、かあか、ちょっとトイレ行くのうちの子見ててくださいって、そんなことって当たり前のようで実は当たり前じゃないんですね。ママがいなくなったら、もう泣き叫んでママのトイレまで追っていくような、そんな日常を過ごしてる中、家ではないところで子どもが手を離れてママがゆっくりトイレをできるって、当たり前じゃないってすごいことだそうです。こういうちょっとのお願いができることが、本当の手前の母親のような寄り添いができるスタッフがいることが、虐待とかネグレクトとか、そういうものの予防になるんじゃないかと感じています。

妊娠期から、私共の施設では携わっているんですけども、民生児童委員という役割、せっかく頂いたこの立場を何かに使わなくては、本当に使い勝手が良ければどんな何でも使えると私は思っているんですね。

もちろん、教会としてお世話取りするのもあり、でも、もしかしたらそれを飛び越えた民生児童委員って、何かポイントがいっぱいついてるような気がしてなりません。支援の最初から、親子をその地域の中で支えることをいつもイメージするんですね。「お子さんはここにいたら」、「もっと発達が気になる方はこの施設いいんじゃない」、とかですね。

私たちでできることとできないことがあるので、イメージをして支えることにしています。

そして最初に、地域の中にどんな関係があれば、このご家庭はその家族なりに子どもたちを育てていけるか。私たちはそのご家族に介入することはできません。でも、この一部分を、たった一杯のお茶を一緒に飲んで、その時の一言の会話で、そっか、かあかとかスタッフが言っていたのってこれだ、っていうことで、お家に帰って、その一部が次にゆったりの生活というか、育むことになるんじゃないかなと思ひまして、私

は、妊娠期から切れ目のない支援のために、教会は敷居は低く、間口は広く、奥行きは深くと思っています。

教会は元々敷居は低いはずなんですけど、うちはすごく低いんですね、敷居あったかなっていうぐらい。でも、多分、先生方の教会はものすごく立派で建物の敷居が高いかもしれないんですけど、その精神としては、敷居は低く、間口は広く、奥行きは深くだと思ひんです。

支援をもとめる方が、今、助けてほしい部分を理解して携わってあげば、本当にその方にあった深さのあるおたすけをしてあげれるんじゃないかということで、敷居は低く、間口は広く、奥行きは深くということ、ちょっと大きく書かせていただきました。



ウェブサイト

<https://kaakanooouchi.wixsite.com/kosodate>

■まとめ

社会、地域の中で、天理教の教会でどういう風に見られてるのかなと思っただけですね、おたすけの道場って言われたんですよ。うち、道場なんだ。うちみたいな小さなところがおたすけの道場なんだって思っただけです。でも、そもそも教会って、そういうものが備わっている場所なんだと思うんですね。まして、神様が迎え入れて、うちのような可愛い教会でも3千人以上の方が来てくださる、それを引き寄せていただく。私はその引き寄せを私のスタッフに感じてるんです。もう適材適所で、今日こういう資料を持たせていただいて、これ全部うちの未信者の、天理教関係者ではないスタッフが作ってくれました。

そもそもそれが「にをいがけ」だと勝手に思ってるんですけど、教会はこういうことができるって本当に思うんです。そのきっかけに今日のお話が、私の報告と実践が、もうそんなことやってるよって思っていただけけるような思いになっていただけたらと思います。本日の私の実践報告を終わらせていただきます。



TOPIC・1

私はなぜ『陽氣会』を立ち上げたのか

講師 杉江 健司



■イライラしない子育て講座のはじまり

杉江と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私が呼ばれたのは多分一番ここに近い教会だからということだけだと思えます。さっと終わりたいと思いますが、私はなぜ陽氣会を立ち上げたのかということです。陽氣会を知らない方も結構いらっしゃると思いますが、イライラしない子育て講座っていうのは聞いたことがある方もいらっしゃるかなと思います。ちょっと挙手してもらっていいですか。名前だけでも（聞いたことがある方も）結構ですが。

ありがとうございます。結構いらっしゃるんですね、ぱっと見たらですね。この中に、イライラしない子育て講座はCPAって言うんですけど、このプログラムのトレーナーが7人も潜んでいたということで、そ

の方々はよくご存じなので、今からちょっと、どうしてそういう陽氣会、また、イライラしない子育て講座を始めたのか。簡単に言うと私がイライラしてたということなんですが、自己紹介はもうほどほどにしとしまして、甲賀部内の美張分教会長の杉江と言います。里親をしているということで、自分の子どもに、そして里子にイライラしすぎちゃったもんですから、それを反省する意味でイライラしない子育て講座っていうのを始めたということです。

陽氣会というのはですね、実は2013年、ちょうど10年、11年前に設立をして、21年に法人化したんですが、教会の中で、空手教室とか青少年養育活動、育成活動ということで、教会の場所を使ってこんなことをやったり、そしてその中で、実は後でお話しますが、不登校、引きこもり、実はうちの子どもが不登校だった時もあります。里子が不登校だったこともあります。ということで、不登校、引きこもりのですね、お助けをするようになったと。

で、その中で、イライラしない子育て講座って、親を支援しようと吉永先生お話ししましたが、今とっても大切なことなんです。で、吉永先生は、そういった場所をまず作って、敷居が低く、懐深く、それが必要なんですが、ただ、それだけでは足りない。虐待はもう、ものすごい増えてるんですね。で、なんで虐待するのか。子どもが憎い親なんていないんですよ。ただ、子ども悪いことするじゃないですか。学校行かなかったり、今だったらゲームやりすぎたりとかね、嘘をついたりあるわけですよ。で、それをですね、やっぱり知らなくて叩いちゃう、怒鳴っちゃう、そして通報されて虐待ってケース結構増えてるということ。で、実はお母さんに育て方をトレーニングしないと、子どもが悪さしたら叩きやすいって、そういう時代もありましたけど、今それダメなんです。ダメだったらどうすればいいか教えないと、ダメだよダメだよじゃ

困っちゃうわけですね。

そして、お母さん、やっぱりいろんなところに、支援センターとか「かあかのおうち」へ行ってですね、ガス抜きする。すごく安心するし、いいんです。でも、家帰ったらやっぱり子ども色んな事するわけじゃないですか。その時どうするのか。毎回毎回、隣にあればですね、吉永さんって行って行けばいいんですが、そういうわけにはいかないのでっていうことでございます。じゃあ、なぜそれを陽氣会って立ち上げてCPAを始めたのかっていうと、実は教祖130年祭、三年千日、今から、まると10年前になります。あ、頃って、おたすけの年祭って言われました。論達出されてですね。もう助けお助けということで、私、甲賀なんです。御多分に漏れず役員巡教が始まり、圧がかかり始めたんですね。で、その圧が半端ないんです。もう私がこんな太ってしまうぐらいの圧だったということで、この圧に耐えきれず、私はどうしたかっていうと。実は私、教会長になってから、戻ってからです。教会にちょっと子どもたち集めてやりたいというふうなことで、「かあかのおうち」ではなく空手道場、実は始めたんですね。もう25年ぐらいになります。始めたんです。その中で、生徒の中に近所の子がいっぱい来るわけですね。で、元々始めたのは、うちで預かっていた里子が、よいじめられたんです。「お前杉江じゃねえじゃん」と。で、みんないじめられる、学校行けなくなっちゃうんですよ。なので、その子たちを強くするしかない。いじめるなって言ったってダメなんで、その子たちを強くしちゃおうって言って、近所の子集めてですね、空手道場始めた。本当に強くなって、強くなりすぎて今度うちの子がいじめるみたいになっちゃいましたけれども、その子どもの中に近所の子たちも来るんですが、不登校の子が現れたんです。ちょうど10年前ぐらいですね。うちの子どもが不登校になる前の話です。学校行けないから、ちょっと困っ

たなということ、私、英語の先生の教員免許持ってるので、じゃあうちでちょっと勉強教えようみたいなことで学習支援っていうのを始めたのがきっかけなんです。学校行けない子たち集めてですね。結構周りにいるんですよね。で、陽氣塾っていうのを始めて、週1回とかですね、勉強始めたんですね。

そしたらですね、本当にたくさんいると。里親っていうのはですね、自分でやりたいって言って子ども集めることはできないんです。児童相談所がこの子お願いっていう待ちの状態なんです。積極的にできないで、いろんなお助けも色々あるかもしれませんが。うちの教会は、教祖130年祭は子育てのお助けやろうというので、じゃあどうしようかって。まず私、形から入るというか名前をつけて、陽氣会という会を作ると。最初は紙1枚、うちの教会に「陽氣会」って書いてですね、頑張るぞって私一人で言ったんですが、ちょうどまたまた隣の家に、本当、となりにあった会社が潰れちゃったので、この会社をですね、借金して買ったんですね。今も借金繰りに悩んでるわけですが。教会の本当に隣にですね、この陽氣会の建物がちょうど、本当にタダ同然ですね、タダではないんですがご守護いただいたということで、陽氣会を一応設立したんです。でも、陽氣会っていうとですね、ただ酒飲んでる会だって間違えるじゃないですか。何の会かわかんないんですよ。なので、ちょっと名前を変えて、「青少年養育支援センター陽氣会」って名前をつけたんです。こんなことをですね、ちょうど10年前に始めたんです。

■虐待された子どもをなくすために

そしたらですね、うちのその陽氣会の前に、ある施設が引っ越してきてんです。うちの教会の玄関からですね、陽氣会の建物から見ると目の前ですよ、本当に目の前に、実はこれは横から見たんですが、児童相談

所が引っ越してきたんです。すごくないですか、うちはもう親子3代で、初代の祖父が教会立てたあの地にね、その目の前に引っ越してきたんです。その児童相談所っていうのは、皆さんご存知、一時保護された、虐待通告されて一時保護された子どもたちが保護されてるんですね。その子たち、外行けないんです。屋上にネット張ってありまして、あそこ、運動場なんですね。外には行けません。でも、中で職員に勉強してもらったりとか、午後になったら、屋上あがってバスケットとか遊んでるわけですね。

うちの教会も、皆さんとは違って、貧乏教会なので、クローラーなんかすぐつけませんよね。この今の時期です、窓開けてたらですね、向こうの方から叫び声が聞こえたんです。女の子が「ママー！ママー！」って叫んでんですね。姿は見えないんですよ、屋上だから。だけど、明らかに「ママー！ママー！」って叫んでる。それから、今まで気にも止めなかったんですが、その声を聞いたら、多分虐待された子ども、お母さんから引き離されて、お父さんに虐待されたのか誰かわかりませんが、やっぱり家恋しいわけですよ。で、「ママー！ママー！」って叫んでるのをね、聞いたんです。

それからですね、耳すませると、今度は男の子の声で、「なんでだよ！」って。中学3年生の子も保護されてるんです。すると高校行けないじゃないですか、このままだと。こういう状態もあるんですね。自分が叩いたんじゃないです、叩かれた方ですよ。被害者なのに不自由するのは子どもたちなんです。「なんでだよ、なんでだよ」って、姿は見えませんがそんなことを聞いてしまったら、私はですね、里親として虐待された子を今も預かってます。うちは今まで55人預かりました。そのうちの40人以上が虐待された子どもたちなんです。結構大変。名古屋駅降りてね、天理教さんって言ったら、まず愛町って言いますよ。タクシー

の運ちゃん、間違いない。この近く昭和区って言って昭和警察署でね、天理教さんって言ったら美張さんって言います。ぐらい、いろんな問題が起きてお世話になってるんですね。

私はそういう子どもたちを、父の代からお助けだよっていう風に言われて、親子2代、こうやってお助けをさせてもらってるつもりでいるんですが、それでもですね、このままでいいんだろうかと思っただんです。今、男の子ばかりなんです。うちはもう高年齢値、一番上は大学生ですよ。高校生、男の子ばかりなんです。もう虐待なんかされませんよ、もうその年齢なんです。だけど家に帰れない。なぜか。ちっちゃい頃から親に、「お前なんか知らない」と言われたりとか、叩かれてもうトラウマになっていて、とても帰れないんです。

そういう子どもたちを今うちで預かってるわけですが、そういう子たちを一生懸命ですね、すったもんだしますよ、いろんなことがあります。でもそんな中、「ママー!」「なんでだよ!」って声を聞いた時にふっと思っただのは、我慢して一生懸命やることで、とても大切なことなんです。が、もっと大切なことがあるんじゃないかと思っただんです。どういふことかっていうと、虐待された子どもたちがですね、例えて言うくと、川上から流れてくるんです。で、私たち里親の目の前に流れてくるんです。このまま海行ったら溺れて死んじゃう。なので、我々はそれを救い上げるわけです。

教会で里子として救い上げて、そして成人させて社会に送り出すという里親を40年近くうちではやってきてるんですが、次から次へと川上から流れてくるんです。止まらないんですよ、なぜか。要保護児童っていう保護しなきゃいけない子が、4万2千から4万5千もいるんです。こんなにいっぱい。そしてまだ増え続けてるんです。

で、私が思ったのは、そういう子どもたちを溺れないように救い上げ

ることも大切ですが、もっと大切なことがあるんです。それは、流す親を止めて、そんな子が流れてこない社会を作ることだと。確かに助けとしてその子たちとすったもんだしながらですね、今日も帰ったら多分すったもんだするんですが、そういうことやるのもとっても大切なお助けですが、教祖はもしかしたら、その子たちを助けるだけじゃなくて、その子たちが出てこない、虐待される子どもたちが生み出されないような社会を作ることの方が本当のお助けだよって言ってるんじゃないかと、ふと浮かんだんですね。

対症療法だと確かにきりがありませんよ、流れていく子たちを救い上げるのも大事だけど、上からどんどこどんどこ流れてくるわけですから。虐待っていうのは、今22万件、これね、超えました昨年度。32年間連続増えてんですよ。32年間一回も減ってないんです。そして今、それは統計開始から220倍になってるんです。子どもの数減ってますよね。なのに虐待はどんどん増えてるんです。じゃあ、その子たちを保護してそれで終わりかという、そうじゃないです。



この子うちに保護されていた子です。今はいせんけど。この子どうなってるかって、うちでは虐待ないですが、実はトラウマっていうのがあるんですね。

(映像を視聴中) わかりますか。これ過呼吸なんですよ。トラウマを思い出して、何かあったわけじゃないです。1時間家内が横でさすってるんですけど、すなわち何が言いたいかって保護されたら終わりじゃないんです。里親に来たら終わりじゃないんですよ、この子の人生も。この子、実は精神科に入院しました。だから里親って大事ですけど、その子たちが世の中で虐待されない社会を作ることが大切じゃないかと思ったということなんです。だからどうすればいいかっていうと、川上で子どもを虐待する親を虐待しないようにしなきゃいけない。一つは、吉永さんのような地域のそういうところに支援を、助けを求めて、いろんな話聞いてもらってアドバイスするってことも大事です。

でも、家に帰ってやっぱ子ども、いろんな問題を起こしてるわけですね。私はいろんな虐待した親に実はカウンセリングを今まで400件やってます。でもその中で誰一人として子どもが憎いつて人いないんです。可愛いけど言うこと聞かないから。でも叩く以外の方法を知らない、なぜか。自分も怒鳴られたから、叩かれて育ってきたからです。子育ての仕方学ぶ世界なんかどこにもないんです。

性教育の時間あっても育て方を教える方、場所がないんで、それを止めなければいけないということを思って、親に子どもを虐待させない仕組みづくりを作ろうと思ったわけです。で、虐待される子どもを減らすっていうことで児童虐待の防止活動をやろうと。不登校のことをやりながらちよつと考えたと。で、思うのは簡単なんですけど、じゃ、どうやって止めるのか。

「学ぶ」って

例えば皆さんがですね、交通違反した。免許停止ですよ。運転免許センター行って講習を受けるんですよ。そうでしょ、そうじゃないと免許返してくれません。一度失敗したらそれで終わりじゃない。免許剥奪じゃないんですよ。またいい運転になるために、ただで返しちゃうダメなんで、トレーニングを受けてから、どうしたらいいのかわかんともう一度受けてから免許を返しますっていうことですよ。だからトレーニングしないと、叩いちゃうダメだよ、怒鳴っちゃうダメだよって止まってるなら、なんで220倍にもなってるんすか。オレンジリボンっていうのは、これ虐待防止のバッジなんです。これでね、虐待が止まるならみんなしたらいいんですよ。私20個でも100個でもしますよ。止まらないんです。

じゃあどうすればいいかっていうのは、学ぶということなんです。じゃあどうやって育てる。叩く怒鳴る以外がダメだったらどうやって育てるかというプログラムを作ったんです。これがCPAというプログラムで、以前はイライラしない子育て法っていう風に言ってます。

これを作っただけだったら、ただの机上の空論ですよ。それをもって、実は私は名古屋市の河村氏の市長室行ってね、こういう状態だから子どもたちを虐待しちゃうのを止めなきゃいけないんで、虐待しちゃう親をまず、虐待させないように。虐待した子どもたちは一時保護されます。98%うちに帰るんです。施設に行くのは2%、里親さんに行くのは2%なんです。ほとんど返すんです。そうじゃないとパンクしちゃうから。じゃ、返しちゃうとやっぱ虐待が再発するんです、約30%。また虐待されて戻ってくるんですが、次はもう子ども返さないことが多いんです、2回目だから。そして怪我も多いんです。

ということがあるので、そのお父さんたちに、今言ったCPAっていうプログラムを学んでもらって、叩かなくてもできるんだよっていうことをやったんです。効果あります。だって私がイライラしなくなったんだから。私は以前イライラしてたんですが、イライラしなくなりましてたつていうのを名古屋市の河村市長に相談してですね、始めたということですね。そしたら効果があったんです。3割再発するのが、学んだ人は1割で済むという効果が実際に認められて学会発表もされてますし、子ども家庭庁にも発表されてます。

実はもう虐待した親の中で、私のようにここのイライラしない講座の講師やってる人もいます。それぐらい変わるんです。学べば親は変わるんです。知らなかっただけなんですから。でも、虐待になってから学ぶよりは虐待になる前に学んだ方が良くないですか。虐待になってです、私、400件の親にトレーニングしてましたけどほとんどの人はね、なんて言うかっていうと、机叩きながら、先生なんでもっと早くこんなこと教えてくれなかったんですか。教えてくれたら私だってもう少し考えたし、虐待にならなくて済んだんです。子どもも傷ついてるし、私も実は親として傷ついたんです。って言われたんですね。確かにそうです。じゃあどうすればいいかっていうと、なる前に学びましょうってことです。

で、イライラしない子育て講座っていうのを始めたんです。区役所とか、保育園とか、それこそ子ども食堂とか。そして今、修養科でもやってますね。修養科の課外授業でもやってますが、いろんなところでイライラしそうなお母さん、皆さんもイライラしてたでしょ。どうです。なんで目背けるんですか皆さん。みんなイライラしてましたよ。誰でもイライラするんですよ、子育て。それをですね、暴力まで行かないように、虐待にまでならないようにっていうのを事前に学べばいいって

いうことで、イライラしない子育て講座を始めて、すごく今広がっていて、実はもうこれ事業化されてるんです。名古屋市も事業化されてます、湯沢市、そして子育て先進地域の明石ではもうこれ事業化されてるの実は。前のよく喋る市長の頃から。っていうことで、今どんどんどん広がっています。今年から三重県でもこれが取り入れられるということとで、今日皆さんにお伝えしたのは、実はこれ誰が作ったって私が作って今広めてるんです。そして今、お道の我々がどんどん、どんどんですね、実はこれを伝えていっています。私一人で始めたんですが、実は足りないの今800人も、最初はお道の人を中心に、今はお道の人以外もやってこれを伝えていっています。



■妊婦の産前子育て学習

私がお話したのは、民生児童委員さんが要対協の中でちょっと危ないよと言ってるお母さんたちに叩いちゃダメだよって言っても虐待は止まらないですよ。当然、かあかのおうちのようなところに行つてです、いろんな話聞いてもらって、地域で子育てする、これも大切ですよ。もう一つ、お母さん自身がトレーニングをしないといけないということで、これを実はもう名古屋市、事業化されて実は始まったんです。でも、ハイリスクになる前に、普通のPTAとか、子ども家庭教育セミナーとか、保育園とかの入学式とかですね、入園式の前でとか保護者会でこう話を聞くとか、区役所なんかで話を聞いたらいんじゃないですか。それを教会でやるのももちろんいいし、子ども食堂でやるのもいいということ始めていますね。そして、一番いいのは出産前です。出産前に実はこれを学べばもつといい。だって子育て知らないんですもん。

で、親になる前に、オムツの替え方とか、おっぱいのあげ方をみんな学ぶんです。でも、育て方って知ってるかっていうと知らないんです。これを学んでもらうということを実は名古屋市の方で事業活動として始まっています。私は今日皆さんにお願いしたいというのは、このお道で始まったイライラしない子育て方法を、ぜひ民生委員の皆さん、私も家内も民生委員なんですけれども、いろんな赤ちゃん訪問をですね、するときにぜひやっていただきたい。

2019年の民生児童委員総会、名古屋市の民生児童委員総会、公会堂でありましたけれども、その時に私が初めてこのお話をさせていたいた時から、民生児童委員さん、中川区とか中村区の民生児童委員総会で呼んでお話をさせていただいて、それから大勢の民生児童委員さんが

今このトレーナーになっています。

■おわりに

そんなことをですね、ぜひお道の我々で進められたらということですよ。地域の悩みっていうのはやっぱり引きこもり、不登校、依存症、いろんながあるんですけど、先ほど吉永先生おっしゃったように、教会がですね、そういった方々の集まる場所で駆け込み寺、こういう風になるのが非常にこれから期待されるということ。これは私が言ってるんじゃないくて、社会が今要望しているというんですね。天理教の教会が地域が必要とする社会資源になる今絶好のチャンスなんです。

で、先ほどもね、80%は子どもがいなくて言っちゃったけど、本当にその通りなんです。名古屋も全国も一緒なんです。そういう方々に集まっていたく。そして、そこでいろんな話をする中に、例えばイライラしない子育て講座を取り入れていただいて、ここのおじちゃん、おっちゃん、なんか子育てのことわかるんやとかですね、この人に相談すればいいなっていうことを認識する場所になりうるということで、地域の子育てステーションが今後これからは必要になるときの一つのツールとして、きっかけとして、このイライラしない子育て講座を使っていただけならいいなという風に思ってますし、全国でこれ今広がってますんで、ただ、お道の方以外にも今どんどん広がっています。

その中でもやはり私も教会長ですし、お道の皆さんの力を借りて、ぜひその力で子どもたちの笑顔を守っていききたいな。子どもたちの笑顔を守るのは大人の責任なんです。

名古屋の子どもたちの笑顔を守るのは名古屋の我々の責任です。

ということ、ぜひ皆さんのご関心をいただけたらということで、ちよつとお話、話題提供ということでお話しさせていただきました。

TOPIC・2

地域の子どもたちと教会生活の風景

天理教民生児童委員連盟委員 橋本直之



■要保護児童対策地域協議会と保護児童との生活

先ほど要対協という言葉が出ました。要保護児童対策地域協議会で、例えば、虐待の恐れがあつて保護しなきゃいけないという事案に対して、地域の関係者が集まつて、この子どもをどういう風に保護していくかという会合です。そこには、まず学校の先生、役所の担当者、児童相談所の担当者、民生児童委員など、私もその会合に2、3回出たことがあります。結局は学校の先生と言つても、勤務だから仕事が済んだら家に帰ります。地域のことわかりません。すると、子どもが夜中に泣き叫んでいるとか出歩いてるとかというのは、やはり民生委員の人が見守ってくださいね、ということになります。その要対協の事案に上つ

た子どもをお預かりしてもらえないというお話がありました。そのお子さんの教育を受ける権利を保障するという意味でお預かりしました。

■グラタンをめぐる

その日の夕食はグラタンでした。私はこんがり焼けたチーズが好きなんです、その時に限つてチーズはただとろけるだけで、全然こんがり焼けてないんです。家内に、「僕は焼けたチーズが好きなんだ」と言つても知らん顔しているので、聞いてないなと思つて、「僕は焼けたチーズが好きなんだから」と再度言う、何言つてのというような顔してるんですね。子どもたちも、ただとろけるだけのチーズを食べているんです。それで3回目に、「焦げてなきゃ意味がないんだよ」と言つたら、ある女の子が、食べるものがあるだけでもありがたいと思わないといかんわと言つて、にらみつけるんです。痛いところつくなと思つていると、ちよつとの間があつて、その隣に座つていた中学の女の子が、「私は毎晩晩ごはんを食べられる幸せがいつまで続くのか不安なんです」つて、ポロつていうんです。みんな、楽しくご飯食べてる状況の中ですから、これはきつかったです。地域からお預りしたお子さんが下向きながら、うんうんと頷くんですよ。私の失言から始まった食事風景ですが、物や食べ物を大事にし、感謝しないといかんし、命をいただくのだから、手を合せて作ってくれた人の気持ちを感謝しないといけないよと、そんなことを言わなくても、その1コマの情景の中で子どもたちが学んでくれるということもあると思ひました。

■里子の教会生活

里子から育つた、女子青年が教会にいますのですが、その子におつとめやつといてね、と頼んで用事で出かけました。その子が芯をやつて、お

勤めに出てくる子どもが後ろにいるのですが、誰かが頭が痛いかなんかで、僕が外から帰ってきてきて神殿に上がると、芯をやった女の子が、子どもにおさづけを取り次いでるんです。僕は後ろから見たら、終わった途端にみんながすごいとか言って拍手をするんです。芸能活動のワンシーン見ているみたいな感じでした。

そんな感動の仕方はあまりないなあと思っていたんですけど、その状況を見ていた、地域からお預かりした子どもが、それから太鼓とかちゃんぽんを教えると言うようになりました。僕は強制してないですが本人が言うので、先輩の女の子に教えてもらっています。最近は勝手にお琴とか三味線を持ち出して、やっています。自然な魂と魂の触れ合い、子どもだとも魂のレベルでのコミュニケーションを大事にしていくと、困っている子どもの気持ちが変わるのではないかなあと、地域の子どもたちとの教会生活の風景の中で思わせていただきました。



地域のおたすけ研修会に参画して

愛知教区・民生児童委員会 担当主事 畑中 正彦

天理教民生児童委員連盟より「地域のおたすけ研修会」を愛知教区で会場を持っていたきたいと突然の電話相談がありました。愛知教区にも民生児童委員会があり、私は担当主事であることに改めて責任の重大さを感じました。

地元で民生児童委員選任解任委員をつとめて「いることから、その役割については知っているつもりでした。私の役割は役所からあがってくる資料に目を通し、選任者の人柄についての情報を集め、会議に臨むことです。妻が主任児童委員をしていましたが、民生児童委員のつとめについて十分な理解をしていなかったことは大反省です。

地域の中では民生児童委員のはたす役割は、対象者のみならず普段の生活には必要不可欠で、社会資源とのつながりの上ではきめ細やかな世話取りが必要と聞いています。生活密着型では社会貢献度の高い役割にもかかわらず、なり手が少なく多くの自治体が困っていると聞きます。

今回の研修会に参画して、連盟委員のみなさまや、各地域でおつとめくださいますようばく民生児童委員の方々の情熱を拝見いたしますと、普段からの地域ではなくてはならぬ人として活躍なさっていることを拝察いたします。時には多くの時間を費やす調査・訪問、加えて地元では充て職も多く、なり手の少ない中、喜びを感じながら生き生きと役割を全うされる姿は、おたすけそのものと感じます。

開催に向け綿密な計画をもって、キーワード「子育て」について教会が、ようばくが何ができるのか、さまざまなヒントを発信してくださいました。次代を担う大切な子どもを育てる私たちも、正しく学び、努力を惜しまず、チャレンジの勇氣を持ち、事にあたろうと思いました。

トピック 北海道教区

「福FES」の開催について

～主催者に聞く～

令和6年9月8日、北海道教務支庁敷地内にて、「福FES」が開催された。これは北海道教区内の有志によって立ち上げられた「福FES実行委員会」が企画して開催したもので、献血車による献血ボランティア、そして保護司、里親、民生児童委員などの福祉ボランティア活動の紹介と、出店ブースによる飲食スペースの提供を合わせた教内のみならず近隣住民など教外の人に向けたイベントである。

この度、開催の経緯などについて、福FES実行委員会委員長の北山元氏（長万部分教会長）にお話を伺った。

質問者——この度の「福FES」の開催を企画した動機について教えてください。

北山——私は北海道教区の福祉厚生部という部署に所属しています。そのお陰で里親や保護司、民生児童委員、教誨師、こども食堂、献血などの社会福祉活動に積極的に取り組まれている方々と接する機会が多く、様々な学びをいただいています。しかし同時にそれぞれの活動があまり一般的に知れ渡っていないという共通の問題を抱えていることを知り、これらの活動を教内だけでなく、地域の方々にも広く知ってもらい、一人でも多くの人が社会福祉活動に参画してもらえさうかけづくりになるような機会を創出しようと思い立ったことがこの「福FES」を開催した動機です。

質問者——開催にあたり、気を使われたことや、開催後に感じたことなどありましたか？

北山——今回、献血協力者以外は事前申し込みの形を取らなかったのですが、当日蓋を空けるまでどれくらいの方が来場してくれるか全く予想が出来ませんでした。ですから「全然集まらなかったらどうしよう。そうになったら飲食ブースを準備してくれた方々に申し訳が立たない。」と不安ばかりが先行していましたが、そして迎えた当日。目標としていた数には全く届きませんでしたが、それぞれのブースが赤字にならない程度の方が来場してくれたので、一安心しました。

質問者——今後の展望など教えてください。

北山——この「福FES」開催にあたって、実行委員会を立ち上げましたが、飲食やお楽しみブースは我々がバックアップをしたわけではなく、教会や個人がそれぞれ資金を準備して出店してくれました。



中には、片道5時間かけて、採算度外視で参加してくれた方もおられました。つまり、「福FES」とはその主旨に共感してくれた多くの仲間たちの善意によって成り立ったイベントなのです。何か事を起こそうと考える一人で思い悩むときもあります。今回は仲間に相談したことでこの行事を開催することができました。今後も「福FES」の意

義を浸透させ、仲間を増やすことが大切だと思っています。そして、教内だけでなく、地域の方にも広く社会福祉の大切さを感じてもらえるような活動を推し進めて行きたいです。

質問者——ありがとうございます。今後の「福FES」の継続と発展を期待しています。

令和 5 年度決算及び 6 年度予算

5 年度収入合計 739,695 円

5 年度支出合計 133,580 円

6 年度繰越金 606,115 円

収入の部

項目	5 年度予算額	決算額	6 年度予算案	備考
繰越金	464,695	464,695	606,115	
年会費	250,000	233,000	250,000	
研修参加費	30,000	0	30,000	
委員活動費	50,000	42,000	50,000	
利子	10	0	10	
合計	794,705	739,695	936,125	

支出の部

項目	5 年度予算額	決算額	6 年度予算案	備考
おやさと研修会	50,000	0	50,000	
おたすけ研修会	250,000	0	300,000	
委員会助成	60,000	67,200	70,000	
慶弔費	30,000	10,000	30,000	
事務費	100,000	56,380	100,000	連盟だより入稿費、事務用品
予備費	304,705	0	386,125	
計	794,705	133,580	936,125	

監査報告

監査の結果、活動は適正に実施され、帳簿の記載
並びに証拠書類等は適正に且つ正確に処理されておりました。

令和 6 年 4 月 25 日

年会費納入について

天理教民生児童委員連盟では、会員の皆様に、年会費納入をお願いしております。今年度未納の方には振込用紙を同封しております。何卒、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

○年会費一人 1,000 円

下記の教区・支部は教区・支部で一括払い

北海道空知支部、北海道札幌中南支部、埼玉、東京、石川、福井、山梨、
岐阜、静岡、愛知、京都、兵庫、岡山、山口、徳島、香川、愛媛、高知、
鹿児島、熊本

天理教民生児童委員連盟 委員紹介

氏名
教区
直属教会・所属教会

橋本直之委員長

大阪教区
網干・網阪



上杉美子委員

大阪教区
中河・島里



青木健裕委員

愛知教区
本愛・本枇杷島



坂下寛幸委員

北海道教区
敷島・釧正



原田ひな委員(新)

香川教区
川之江・寶谷



毎田孝則副委員長

山口教区
周東・鶯谷



中村誠一委員

北海道教区
洲本・統典



末村真人委員

兵庫教区
兵神・湊西



平田道則委員

奈良教区
鍛冶惣・鍛冶平



板倉元副委員長

滋賀教区
甲賀・押立



三代信行委員

鳥取教区
笠岡・米美



安村真一郎委員

京都教区
中背・中背



酢藤真美子委員

大阪教区
敷島・眞榊

